

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷場小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	全体的には基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差もみられることから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等個別に蓄積されたデータを効果的に活かす方法を検討していきたい。国語では、漢字の定着はみられたが、主語・述語の関係の理解に課題があるので、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を重点的に指導していきたい。また、算数では単位量の理解や計算式の意味の理解等に課題がみられることから、習熟度別学習を積極的に取り入れ、少人数で個別最適な学びが行えるような環境を整えたい。
思考・判断・表現	概ね目標を達成することができている。国語では、「読むこと」の領域に関して全国学力・学習状況調査でもさいたま市学習状況調査でも課題がみられた。読書に力を入れて文章を読む活動を増やすとともに、文章から要点を読み取ったり、自分の考えをまとめたりする活動を重点的に行っていく。また、算数でも協働的な活動を通して、相手意識をもって適切な表現で考えを書き表し、自信をもって主体的に相手に伝えられるような機会を多く取り入れた授業を実践していきたい。
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」と「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が、全国学力・学習状況調査、さいたま市学習状況調査ともに目標値を下回ってしまった。次年度はどちらも向上させてられるよう、全ての教育活動でICTを有効に活用しながら主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。また、引き続き道徳教育の一層の推進を図りながら、自分の頑張りを素直に認めたり、他人の頑張りを見つけ認めてあげられるような心を育成していきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和5年度さいたま市学習状況調査(国語・算数)の「知識・技能」の平均正答率を、さいたま市平均よりも上回るようにする。	⇒ デジタル教材を活用し、漢字や基本的な計算等の反復・習熟に取り組む。また、習熟度別学習を取り入れる等、個別最適な学びが行えるよう児童の習熟状況に応じた指導を行う。
思考・判断・表現	令和5年度さいたま市学習状況調査(国語・算数)の「思考・判断・表現」の平均正答率を、さいたま市平均よりも上回るようにする。	⇒ 協働的な活動を多く取り入れ、自分の頭で考え、その考えを自分の言葉で適切に表現したり、相手意識をもって、自分の考えを伝え合ったりする言語活動を充実させた授業を実践する。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度さいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 授業において、児童が主体的に課題を見だし、解決する場を設定する。また、道徳の授業研究を通して、何事にも「やってみよう」と挑戦する心や、自分の頑張りを素直に認めたり他人の頑張りを見つけ認めてあげたりができるような心を育成する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「知識・技能」において、全国平均と比較し、国語は+6pt、算数は+8ptであった。令和5年度さいたま市学習状況調査(国語・算数)の「知識・技能」において、さいたま市の平均と比較し、国語は+4pt、算数は+6ptであった。	A
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「思考・判断・表現」において、全国平均と比較し、国語は+4pt、算数は+5ptであった。令和5年度さいたま市学習状況調査(国語・算数)の「思考・判断・表現」において、さいたま市の平均と比較し、国語は+7pt、算数は+4ptであった。	A
主体的に学習に取り組む態度	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の2つの質問項目において、肯定的な回答の割合は、令和5年度全国学力・学習状況調査ではそれぞれ84%と81%であり、令和5年度さいたま市学習状況調査ではそれぞれ89%と84%であった。	C

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	令和5年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「知識・技能」において、全国平均と比較し、国語と算数ともに上回った。しかし、算数における「正三角形の意味や性質」についての問題の正答率が、他の問題に比べて低かった。より一層、朝のパワーアップタイムを活用したり習熟度別学習を行ったりしながら、児童一人ひとりに合った問題を反復し、習熟していくよう努める。
思考・判断・表現	令和5年度全国学力・学習状況調査(国語・算数)の「思考・判断・表現」において、全国平均と比較し、国語と算数どちらも上回った。しかし、国語は、「書くこと」の領域が全国平均を下回った。自分の考えを書いたりまとめたりすることに関して多くの児童が苦手としていることが分かる。文章から要点を読み取ったり、自分の考えを限られた文字数でまとめたりする活動を重視していく。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合は84%で、目標とする値には届かなかった。「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の質問項目においても、肯定的な回答の割合は全国平均を上回ったが81%であった。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	令和5年度さいたま市学習状況調査において、さいたま市の平均より国語+5pt、算数は+4ptであった。国語では筆使いの問題、算数では除法の計算の問題において課題がみられた。教科への興味関心については、国語・算数ともに肯定的な回答の割合が80%弱で、市の平均と大きく変わらなかった。	小4	令和5年度さいたま市学習状況調査において、さいたま市の平均より国語+6pt、算数は+5ptであった。国語では主語と述語の関係の問題、算数ではグラフの問題において課題がみられた。教科への興味関心については、肯定的な回答の割合が国語は86%・算数78%と、市の平均を大きく上回った。
小5	令和5年度さいたま市学習状況調査において、さいたま市の平均より国語+6pt、算数は+7ptであった。国語では主語と述語の関係の問題、算数では単位量あたりの大きさを求める問題において課題がみられた。教科への興味関心については、国語・算数ともに肯定的な回答の割合が80%前後と、市の平均を大きく上回った。	小6	令和5年度さいたま市学習状況調査において、さいたま市の平均より国語+4pt、算数は+5ptであった。国語では正しい漢字に直す問題、算数では線分図から比を求める問題において課題がみられた。教科への興味関心については、国語は57%で市の平均は下回ったが、算数は65%で市の平均を上回った。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし